

英語学科		教授	Adam ZOLLINGER	大学院の授業担当 無
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	講義科目に関して	2009年～現在	【学外授業】近世日本絵画の授業では、学生の興味を刺激し、教室で学んだテーマに実際のコンテキストを提供するため、また学習に明確な焦点を与えるため、学期ごとに関東エリアで催される特別展等にクラス全体を連れて行く。	
		2009年～現在	【通常授業】学生の理解度を高めるため、また90分続く英語での講義に学生の集中を持続させるため、毎回スライドを用意し、講義内容の詳細なアウトラインを配布する。	
2	演習科目に関して	2010年～現在	ゼミでは、学習プロジェクトに対して努力、興味、参加意識を高めるためのモチベーション手段として、また学習の方向性を与え、達成感を実感するため、ペアで調査研究したプレゼンテーションを作成し、他大学主催の「ペアで紹介する日本文化プレゼンコンテスト」の出場を目指す。	
		2011年～現在	【ゼミの学外授業】毎春学期、ゼミ生全員が日本アジア研究学会(ASCJ: Asian Studies Conference Japan)年次研究大会に参加する。事前にグループ分けしリストから参加する発表を決めそれについて調査し、当日グループごとに選択した発表に参加する。後日、参加した発表内容について各グループでプレゼンテーションを行う。直接的目的としては、上級の、大学院レベルのモデルを経験することで、ゼミ生が自身の研究、プレゼンテーションの高い成果を目指す動機づけとなり、間接的には大学院進学に関心を持たせる。	
3	全学総合科目に関して	2012年～現在	外国語で行う、日本人・外国人留学生一緒に受ける日本伝統文化に関する講義授業では、グループ形式でのコミュニケーション、協働学習(ピア・ラーニング)活動を多く組み込んだカリキュラムを作成。①受講する学生の多様性を利用し、テーマに対する考えや見方の異文化交流を容易にする②両者それぞれの学習ニーズに答える(日本人学生にとっては英語コミュニケーションスキルとクリティカルシンキング、留学生にとっては日本の歴史や文化への理解)③各学生の興味を刺激しモチベーション向上	
		2012年～現在	学習の向上を促し、テストやレポートに関して学生を手助けするため、各学習テーマに沿った包括的な参考図書を用意して、図書館に指定図書として学期を通して設置してもらう。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)				
年月日		活動内容		
2002年6月～現在		能楽学会会員		
2002年6月～現在		藝能史研究会会員		
2002年6月～現在		Association for Asian Studies会員		
2003年4月～2012年3月		大学英語教育学会会員		
2013年5月～現在		European Association for Japanese Studies会員		

その他

科学研究費助成事業:

『佐賀鍋島の伝世史料からみた「大名面」の制作と蒐集の実態』 2009年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)学術図書